

自然共生への行動変容につながる 情報デザイン



長野県環境保全研究所 自然環境部

SDGsにおける生物多様性と気候変動について、具体的な行動に繋がる情報を発信します。

なぜ研究が必要なの？



<現状> 信州の自然環境は気候変動や外来種等の危機にさらされています。多くの環境問題は2030年までに対応しないと取り返しがつかなくなると考えられています。

<課題> 一方で、これらの問題はスケールが大きいため、具体的に私たちが何をしたらよいのかが漠然としています。

<目的> 人と自然が共生する持続可能な社会の実現に向けて、長野県の実生活・農林業・観光業・健康等の各分野で実践でき、具体的で受容しやすい「自然を利用した社会課題の解決方法 (Nature based Solutions: NbS)」として展開します。

どうやって研究するの？

1. 私たちの社会は自然（生物多様性）に根本的に依存していること、②気候変動などの影響、③社会課題の解決策としての身近で具体的な事例、を行動変容につなげる形でまとめます。
2. 学習交流事業や出前講座等を通じて県民の皆様と共創し、発信します。

このような生態系の多様性、そのなかの生物種、さらにその中の遺伝的多様性の総体を生物多様性といいます

生態系の多様性
様々なタイプの自然環境がある

高山帯
湿原
里山

種の多様性
様々な種が生息・生育している

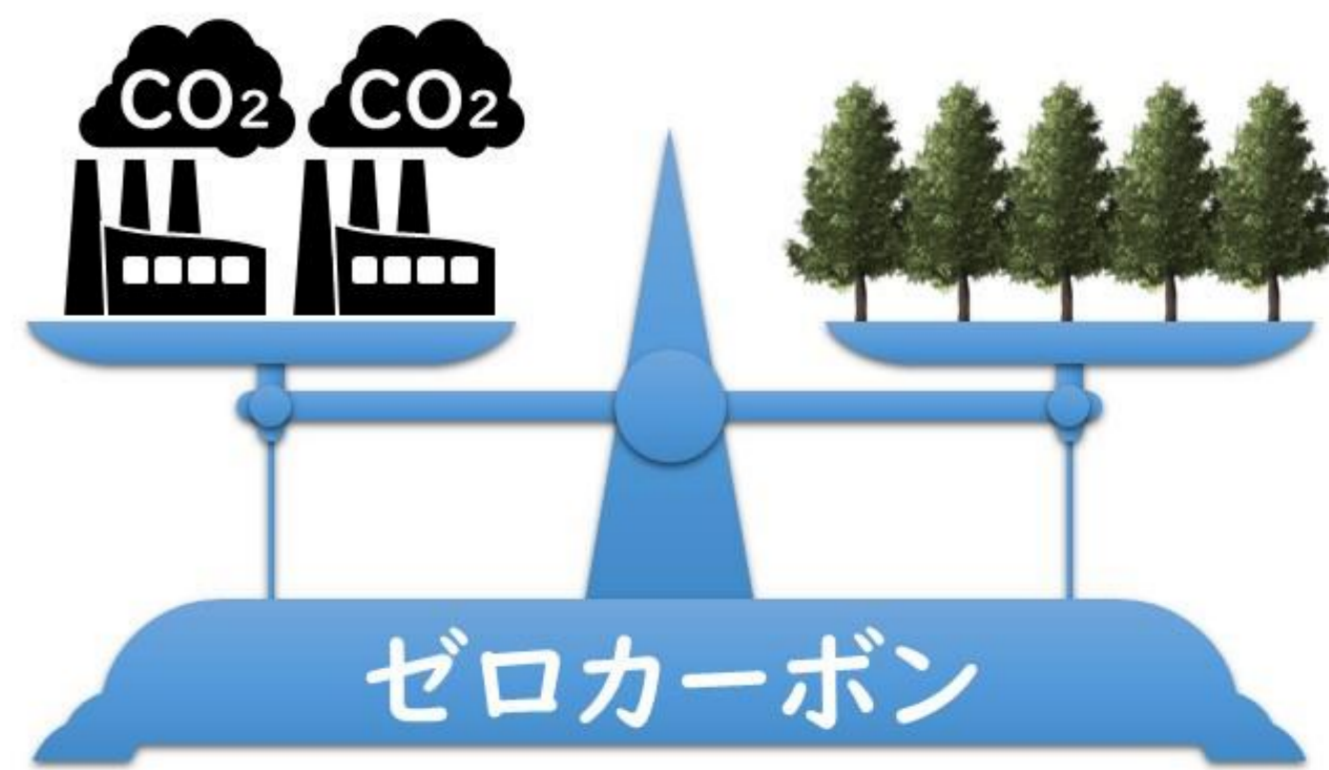
モリアオガエル、マツムシソウ、ライチョウ、カヤネズミ、レンゲハシロ、イブナ、キノコの仲間、ハチの仲間、サゼンソウ

遺伝子の多様性
同じ種の中でも遺伝子に違いがあり形質の違いが見られる

ダイズの品種

カーボンニュートラルと信州ゼロカーボン戦略

この**1.5℃目標**を達成するには、今世紀の後半までに、温室効果ガスが大気中でそれ以上増えなくなるようにしなくてはなりません。それには**温室効果ガスの排出量を植物などによる吸収量**とつりあうレベルまで下げなくてはなりません。これをカーボンニュートラル、または**ゼロカーボン**といいます。



今後の展望

- 研究所が20年以上にわたり蓄積した研究成果を結集し、人間活動の影響で急速に変化する自然環境の姿を示します。
- SDGsなどのグローバルな課題を、長野県の特徴を踏まえて、私たちの暮らしのレベルに落とし込みます。
- 問題解決に向けて、具体的な行動につながる情報を提供します。



信州の
気候変動